

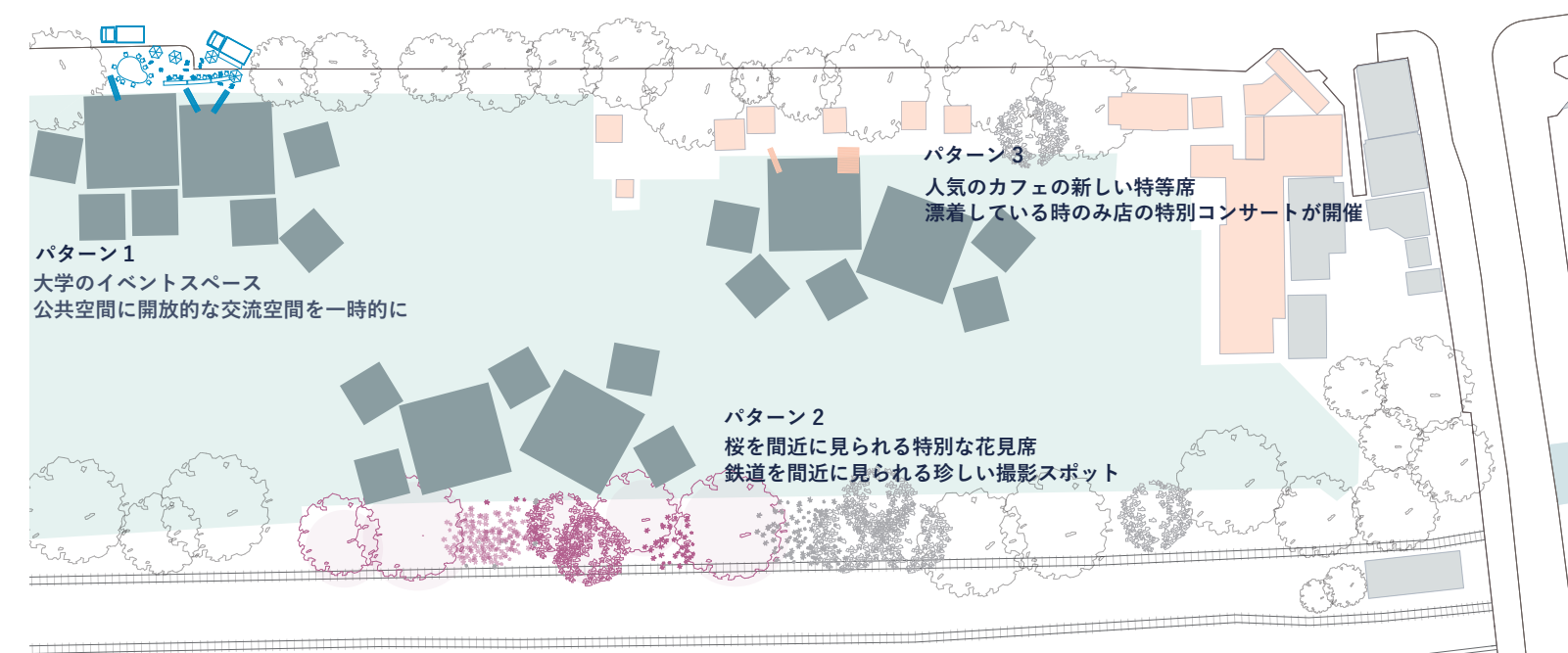
水情のうつろい

時を経ても変わらず都市の歴史に寄り添い続ける外濠
 変わらない歴史の痕跡の上につつろう新たな風景を浮かべる
 都市の営みへと漂着した風景はまた新たな風景となり、新たな営みをつくりだす
 その時代、その瞬間、その場所にしかない水上の情景の提案



高密度都市を分断する自然の余白空間＝「外濠」

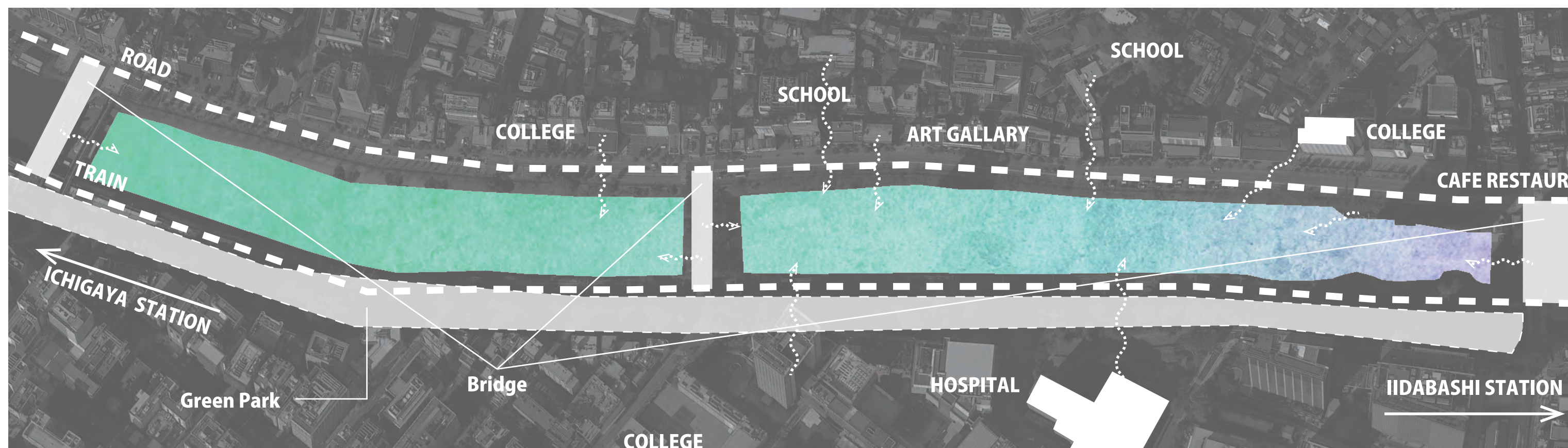
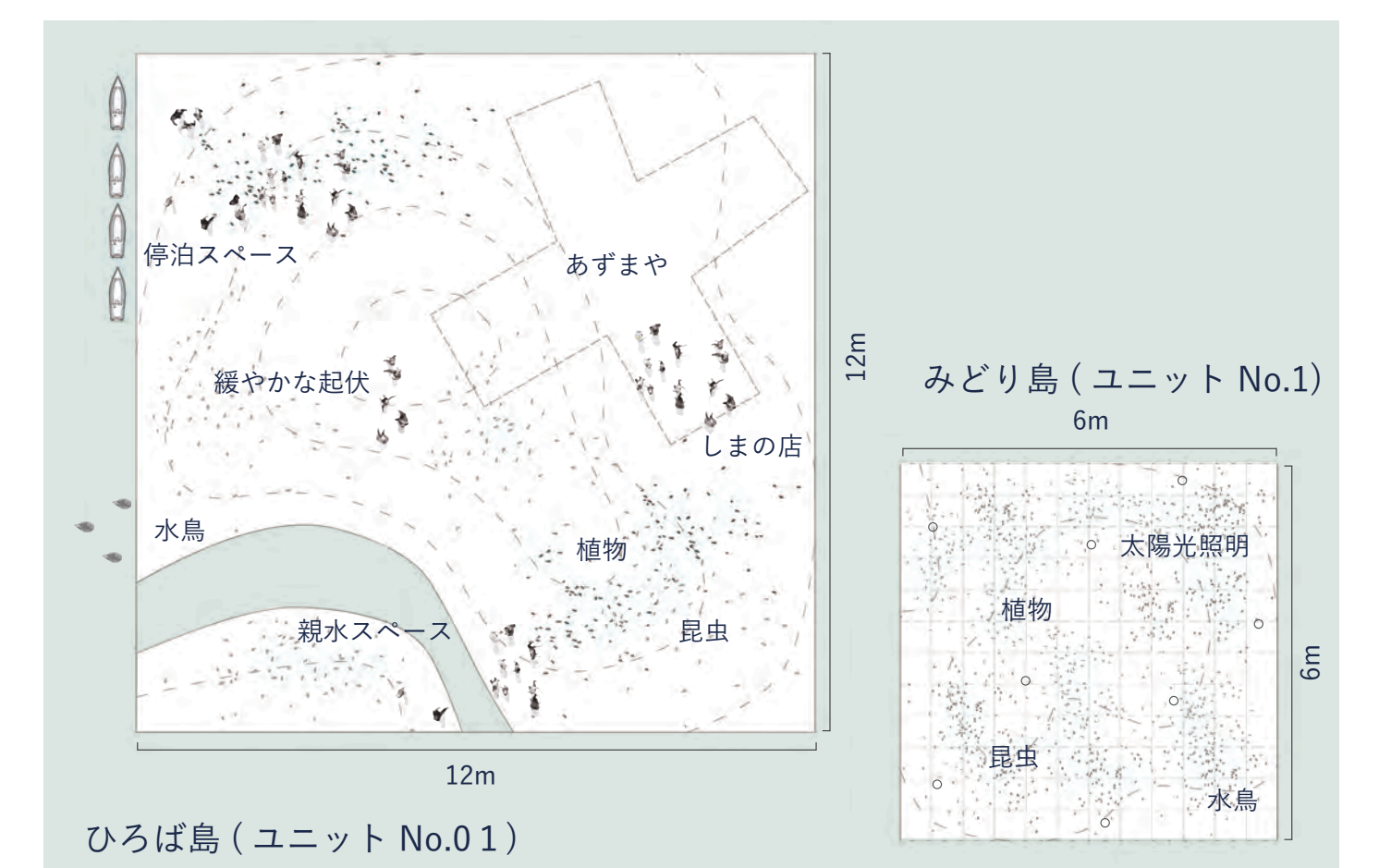
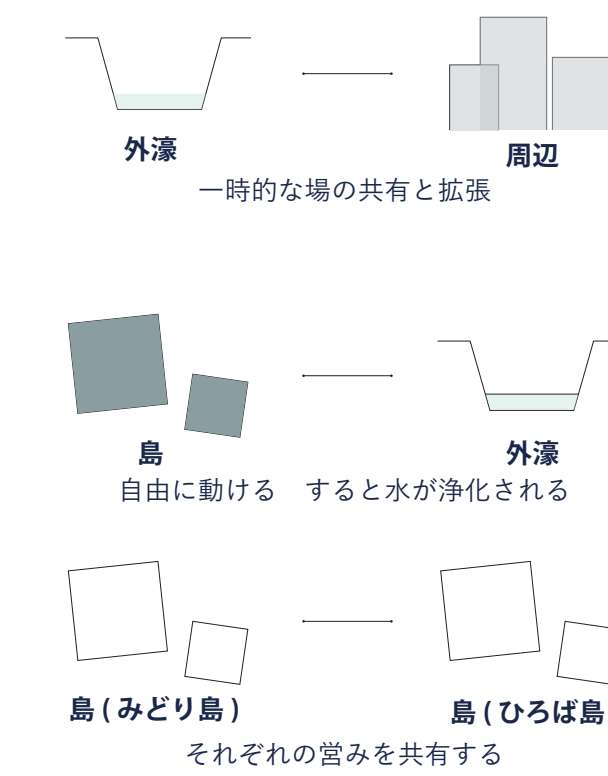
社会の発展と成長によって人々の生活の変化とともに姿を変えてきた東京の中心で外濠は古くは江戸時代から、人々の営みに寄り添いながら都市の中の余白空間として自然の風景を生み出してきました。かつては防衛、運搬、上水利用と都市機能を担っていましたが、現代においては機能から景観のみへと価値がうつり、効率的な都市開発の中で外濠の再評価が問われています。都市を巡るように延びる外濠の周りには道路や鉄道は沿い並び、橋がかかり、様々な用途の建物が建つことによって営みの賑わいが存在します。それらの賑わいを引き込みながら濠という長さも幅をもつ空間に新たな場をつくることで、外濠の価値を再定義し、新たな都心の景観を提案します。



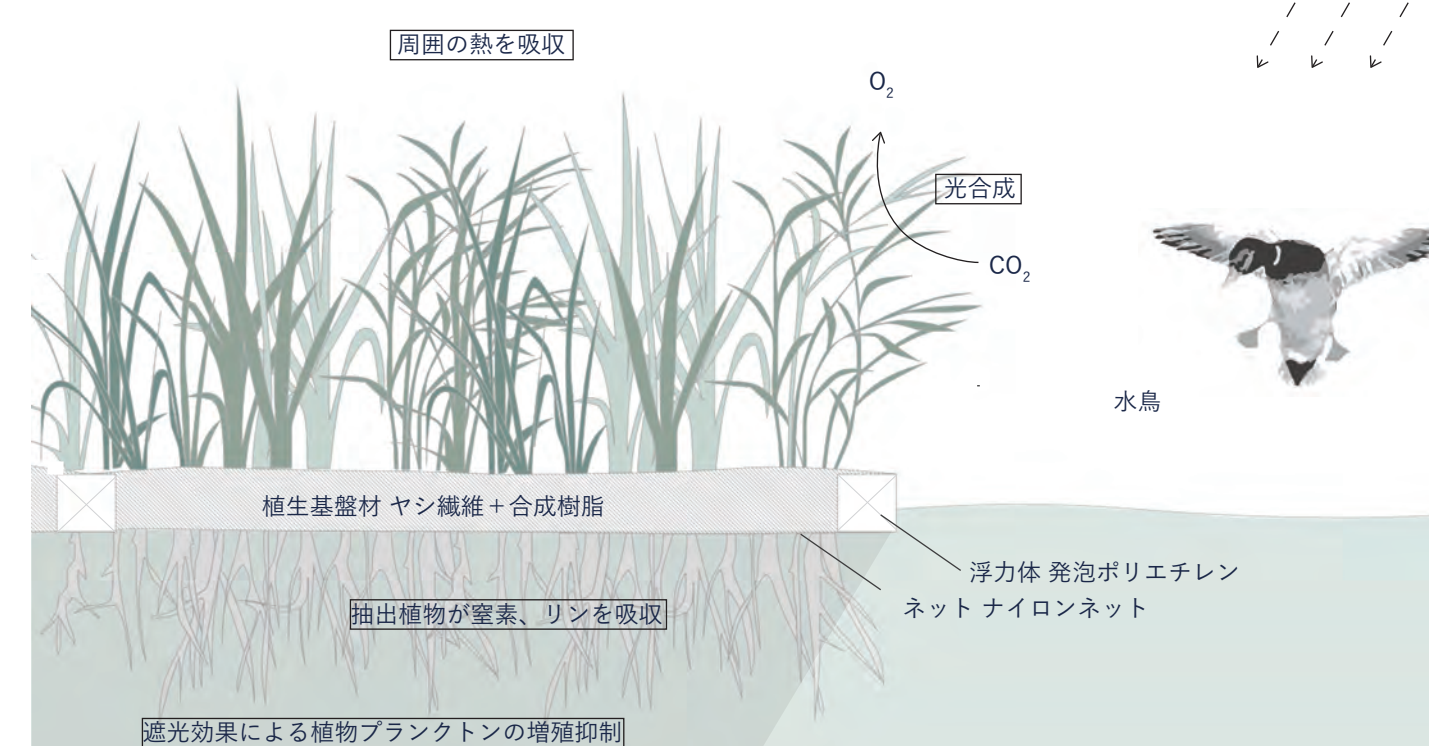
外濠を泳ぐ「浮島」がつくりだす移ろう局所的な風景

複数の「みどり島」と「ひろば島」は風などによる自然的な外力と人による意図的な外力によって時間によって異なる場を生み出します。それは島同士のつながり方、島の数、島の漂着場所などによって様々に変化し、そこで行われる営みもまた様々に変化します。

移ろう相互関係



みどり島 断面図



ひろば島 断面図

